

非文字資料研究

The Study of Nonwritten Cultural Materials

NewsLetter

2004.3
No.3

CONTENTS

巻頭言 3

笠松 宏至 (元神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科教授)

研究エッセイ *ESSAY*

絵画史料と建物の復原 4

西 和夫

紙の造形 いざなぎ流の御幣 6

梅野 光興

伝統芸能とデジタル技術の出会い 8

長瀬 一男

「非文字資料」と歴史学 10

的場 昭弘

「横浜写真」の位置 12

金子 隆一

研究会報告 *SCIENCE REPORT*

可能性の宝庫 「絵引」 14

窪田 涼子

風景印にみる地域の提示 16

須山 聡

コラム 「ボロ織り」から見たもの 19

加藤 友子

フィールド・ノート *Field Note*

奉安殿「発見」記 20

藤田 庄市

海外博物館事情 *Foreign Museums*

フランス博物館の情報戦略 22

フレデリック・ルシーニュ

主な研究活動 24

コラム 佐賀平野の干拓集落の景観を観察して 25

藤永 豪

コラム 煎餅のつやと道具のつや 26

中町 泰子

MAP・写真紹介・COE支援事務担当紹介 27

編集後記

Report & Information 28

表紙写真説明

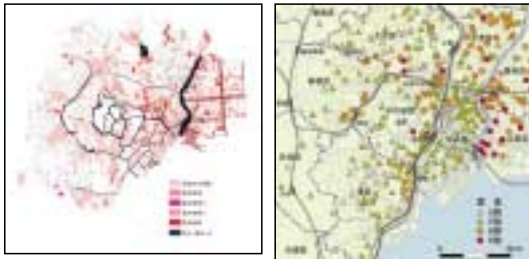


図1 安政江戸地震の被害図 (江戸東京博物館作成の基図利用)
図2 安政江戸地震の震度分布図 (中村 操作成)
(国立歴史民俗博物館編『ドキュメント災害史1703 2003』2003年, 44頁)

安政江戸地震の被害図と震度分布図

図1は江戸御府内(旧15区)の範囲の大名屋敷、旗本屋敷、町地のそれぞれの被害箇所を色別に示したもので、図2は現代の地形図に安政江戸地震(1855)の震度分布を表したものである。

図2は、地表に現れた被害から一定の基準によって揺れの大きさを判定し、等震度線を結ぶことによって震央を求めると、地震のメカニズムを知るために作られたものである。近代的測量機器による計測ができない時代の地震は、歴史資料を活用して、被害分布に基づいて震度分布図が作成される。

図1は、被害の広がりを把握するために、歴史資料の記述をそのまま地図に落とし込んだもので、いわば、図2の元となる性格の図である。いわば、同じ資料に基づいて、地震を地面の上(図1)と地面の下(図2)で捉えたものである。眼に見えない地中の奥を文字資料を媒介に記号化する作業では、文字資料の限界と可能性をいやというほど味あわせられる。目的が異なると、図の表現が異なる典型的な事例である。(北原 糸子)